

令和2年度シラバス

言語聴覚士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
言語聴覚障害概論		講義	今井 絵美子・太田 信子・高橋 朋佳 田中 義之・西田 和子 他	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
言語聴覚士がかかわる言語・コミュニケーションのプロセスや、摂食・嚥下の仕組みと、小児から成人に見られるそれらの障害について種類や特徴などの概要について講義する。ワークや体験を重視した講義を行う。また、言語聴覚士の歴史、職務や役割について講義する。現場の言語聴覚士科や当事者からの話を聞く事、施設見学あるいは当事者とのかかわりの体験を通し、障害や臨床現場のイメージを持つ。				
授業の到達目標				
1. 言語聴覚士の歴史や職務が理解できる。 2. 聞いて話すまでのプロセスについて説明できる。 3. 言語聴覚士の職務や求められる資質について理解できる。 4. 言語聴覚士の臨床についてイメージすることができる。 5. 代表的な言語聴覚障害についてイメージし、概要を説明することができる。				
授業計画				
回	内容			
1	言語聴覚士の仕事と歴史的背景について			(高橋)
2	聞いて話すまでのプロセスと言語障害の捉え方			(今井)
3	臨床（評価・診断・訓練・指導）の流れと役割			(西田)
4	失語症、高次脳機能障害、成人構音障害①／話せない体験提示			(太田)
5	聴覚障害、吃音、小児構音障害			(田中)
6	知的障害、発達障害、脳性麻痺			(西田)
7	摂食・嚥下障害			(今井)
8	地域医療について①			(田中)
9	地域医療について②			
10	当事者からの話			
11	臨床現場に携わる言語聴覚士の話			
12	施設見学あるいは当事者とのかかわりの体験			
13	施設見学あるいは当事者とのかかわりの体験			
14	失語症、高次脳機能障害、成人構音障害②／話せない体験のまとめ			(太田)
15	当事者とのかかわりの体験のまとめ（討議）			
成績の評価法と基準				
種別	割合			
定期試験	60%			
レポート	10%	話せない日のレポート		
小テスト				
平常点	30%	感想・レポート提出、講義・討議の参加態度、出席		
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
絵でわかる言語障害 第2版	毛束真知子	学研メディカル秀潤社		
言語聴覚士テキスト 第3版	岩田 誠 他	医歯薬出版		
言語聴覚療法シリーズ1 改訂言語聴覚障害総論 I	倉内紀子	建帛社		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
標準言語聴覚障害学 地域言語聴覚療法学	半田理恵子・藤田郁子 編	医学書院		
自由記載				
備考				
9～15回の順序は入れ替わる場合があります。				